



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第
11号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第11号). 泌尿器科紀要 1957, 3(11): 718-718

ISSUE DATE:

1957-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111525>

RIGHT:

編 集 後 記

佐谷有吉先生の御逝去を深悼致します



厚生省においては本年度の国立病院共同研究班の一つとして疾病毎の診療標準を作成することを目的として「診療基準班」を新設し、その研究班員として九病院を指定した。これはいわゆる国立病院であつて大学病院或は他の大病院は含まれていない。その研究方法はとりあえず各診療科目につき1～2種類の疾病をとりあげてその診療基準を研究せんとするもので、対象疾病名は内科は肝炎と腎炎、外科は虫垂炎、泌尿器科は腎結核などであり、その研究費も配分せられている。今後は対象疾病は漸次拡大せられてゆき、それが各疾病の診療基準となるであろう。つまり今後の健康保険の治療指針は国立病院のこの研究班にて決定せられることになるのであろう。従来から研究施設は大学病院が最も充実しているのでその研究成果は一般に最も高く評価せられ、治療指針に取り入れられたり或はその改訂に役立つところが大きかつたと思う。ところが先般の健保法の改変によつて大学病院といえども一般医療機関と同様に原則的には厚生大臣の定める以外の新しい療法や検査を行つてはならぬことになり、今回の国立病院診療基準班の新設によつて治療指針作成にも全く関係がないことになった。即ち厳密に言えば大学病院は新しい臨床研究が出来なくなり、国立病院で定められた指針によつて診療するより他に道がないわけである。これは近い将来に国民皆保険の実施が予想せられるから尚更である。このような大学病院を臨床研究や、従つて国民医療の向上から棚上げにしてしまうようなことが一般から納得されるであろうか、これは明かに不合理であるし、国家的に考えても不経済なことである。こんなことが何故に行われるのであろうか。官庁制度の誤り或は役所のセクショナリズムに由来するのではなからうか。もし左様なことであるならば黙つていられないことである。いずれにせよ官公私を問わず全国の医育、研究機関は我国の医療制度がいかにあるべきかを熱意を以て検討するべきであらう。

購 読 要 項

1. 発行は毎月(年12回)とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 人会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること、附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例、中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込みと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部